

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年四月度 入選句（投稿総数九百七十七句・一般投句数六百二十句）

特選

花吹雪もつたいたいほど浴びにけり

愛知県名古屋市長 岩田 遊泉

花吹雪、好きなことばです。そしてその花吹雪との遭遇もまた望むところです。その花吹雪を勿体ないほど浴びるとは勿体ないの極みです。

目を細め、両手を広げ、その下に佇ちつくすのは正に極楽浄土、万雷の拍手を浴び舞台に立つ己の酔い知れた至福の姿なのです。

よく似てるおでこのあたり桃の花

東京都世田谷区 関戸 信治

世に己に似ている人は七人とか言いますがこの句のそれは、それとは違ってDNAを継ぐ家族のことであろうと思います。似て欲しくないところが似るのも因果ではありますがこの句の場合のおでこのあたりというのが何ともユニークで面白いのではないでしようか。このDNA・形もさることながら所作や声などもまたよく似ていてとても微笑ましく、桃の花という季語の幹旋も絶妙な趣があつていいと思います。

いつ見ても心やわらぐさくらかな

大垣市 森 美代子

さまざまのこと思ひ出す桜かなとか、咲き満ちてこぼるる花もなかりけりとか桜の花の下に立つと思ひ出す俳句があります。桜の花の下に立つときの人の心はとても素直です。この俳句もまた誰が読んでも“そだね”と共鳴できる句だと考えます。そして来年もきつと桜の花の下に立つと心やわらぎて見ることになるのだと思います。

秀逸

図書室にいつもの少女桃の花

愛知県名古屋市長 舘野 茂子

何事も無きかに梅の咲きにけり

岐阜市長 富永 萬里

どの川を見ても静かや鳥帰る

大垣市長 福永 峰子

山笑ふ傘寿の母のスニーカー

養老郡養老町 田中 紫香

鳥帰る水面の伊吹そのままに

大垣市長 大杉 すみゑ

まつさをな空まつさらな入学子

安八郡神戸町 澤崎 和子

親子三代同じ校歌や卒業す

大垣市長 鶴田 信子

たいようのひかりをあびてはなみずき

安八郡安八町 高橋 英治

老深く無口な母と観る桜

大垣市長 山田 千歌子

春の夜の糊匂ひ立つ敷布かな

大垣市長 北浦 典子

入選

担任を御輿に担ぎ卒業す	大垣市	傍島隆
ふくらめる風を引き寄せ花筏	安八郡神戸町	高橋泰
見てくれと云わぬばかりや落椿	大垣市	仁村光生
舟下り少し青みし葦の角	大垣市	伊藤琴晶
花筏琴の音色に流れをり	大垣市	中井信義
花筏分けて進みし舟下り	愛知県名古屋市	彦坂茂光
流鏑馬の射手を横切り初つばめ	三重県員弁郡	種村芙美代
灯に映える赤きワインや花に酔ふ	大垣市	多和田一徳
川の音まじかに花の散りいそぐ	大垣市	田辺のり子
のどかさや草木も風も鳥声も	大垣市	尾関逸子

入選

御岳の噴煙はるか鳥雲に	大垣市	岡田あや子
伸びるまま流るるままに水草生ふ	大垣市	吉田てるみ
水草生ふゆつくり流る菓子袋	大垣市	平野ヒサエ
心地よくスカーフなびく春の風	羽島市	伊藤みさの
花むしろ園児の昼餉車座に	大垣市	森川きよ子
夕ぐれの風にふらここひとりゆれ	大垣市	秋山くに子
花ちりて風のかたちになりにつり	大垣市	岩田唯志
ゆつくりとベンチにひとり花疲	大垣市	北村陽子
花筏押す風の出で舟下り	愛知県名古屋市	田辺満穂
ぶらり来てそのまま花の人となる	不破郡垂井町	中西弘子

選者吟

おうといふ出会ひ桜の花の下

青志